

【 1 1 】クルマ社会と子どもについての自由意見

(1 1) クルマ社会と子どもについての意見 (A ~ C ' 群 : 大人全員への質問)

質問 (A 保育園・幼稚園の先生・B 小学校の先生へ) 保育にあたるお立場として、クルマ社会と子どもについて、お感じのことがあればお書き下さい。
(A は「保育にあたるお立場として」、B は「教育にあたるお立場として」と付記)

質問 (C 一般保護者・C ' 心身ハンディ児の保護者等へ) クルマ社会と子どもについて、お感じのことがあればお書き下さい。

... 多くの人が危険・不安・疑問を感じながら生活 ...

クルマ社会と子どもについての自由記入意見欄には、大人全体で 3 6 9 件、4 割近くもの人々から意見が寄せられた。内容は大別すると以下のようである。自由記入の欄にこれだけ多くの意見が記されたのは、子どもとかわる

人々がクルマ社会に少なからず疑問や問題意識を抱いていることの証しともいえる。意見全体から見える今の社会は、子どもだけではなく大人にとっても厳しく、改善すべき問題点が多い。

クルマ社会と子どもについての意見 (A ~ C ' 群) の内訳

[A] クルマ社会の中での子どもの現状についての意見 8 5

- 1) 交通事故の危険に対する恐れや不安など (3 7)
- 2) 歩く力、体力、忍耐力の低下など心身への影響について (3 6)
- 3) 減少した遊び場、歩く道、自然への思い (1 2)

[B] クルマ社会全体への意見やそこに暮らす身としての意見 1 2 6

- 4) クルマ優先、利益優先社会への批判や、命を尊重する社会への願い (4 3)
- 5) 大人の意識の持ち方が大事 (3 9)
- 6) クルマを使う立場での反省や葛藤 (2 4)
- 7) クルマは必要 (使わざるを得ないもの) であり共存が大事 (2 0)

[C] 現実を変えていく対策案 1 0 3

- 8) ドライバーのマナーや意識の向上が大事 (4 1)
- 9) 道路や交通環境の改善への要望 (2 7)
- 10) 取り締まりや運転教育、罰則強化への要望 (1 4)
- 11) 公共交通の充実や使いやすいシステムへの要望 (1 0)
- 12) その他の対策案 (1 1)

[D] 子どもへの防衛対策案 4 4

- 13) 子どもや歩行者のマナー教育も大事 (2 7)
- 14) クルマに対する子どもの危険意識が希薄・クルマの危険性を教えることも必要 (1 7)

[E] その他 1 1

- 15) 上記分類以外の意見 (1 1)

〔A〕クルマ社会の中での子どもの現状についての意見

1 交通事故の危険に対する恐れや不安など(37)

*子どもが交通規則を守っていても安心して横断歩道を渡れない。(4)

*車の数が多く、子どもが親のそばから離れて通学、遊びをするようになると一番の不安が交通事故。人優先であるべき交通ルールが守られにくい状況で被害に遭う不安を、今度どうしていけばいいのか。(3)

*登校時でも日常でも、子ども達は常に交通事故の危険にさらされている。(3)

*いつも危険を感じている。今日も無事に帰ってきたなとほっとしてしまう。(2)

*特に3歳未満児の子どもたちは、自力では車からの危険は避けられない。

:子どもができてから車がこわく感じる毎日。道は誰のためにあるのかと考えてしまう。

*子どもと車の多い場所を歩くのは本当に「一瞬で命を失うかも」という心配がある。

*子どもの目線からは車は巨大なもの。そして毎日利用して登園している。

*耳の聞こえない子はかなり気をつけて道を歩いているが、早いスピードの車には気づくのがおくれがちで、怖い思いを何度かしている。

*車の量が多すぎて子どもが外でのびのびと遊べない。通園も歩いていきたいが、道が狭く歩道もない。車もすぐスピードが出ていて、大人でも歩くのが怖い。

*安心して外へ子どもたちを遊びに出すことができないことに親としてもストレスを感じている。

*狭い道路でもかなりスピードを出して走っている車もあり、親としてすごく怖く感じる。

*事故は、歩道橋の真下で起こった。国道に架かる歩道橋の下で、国道の対岸から母親に呼ばれたその子は、歩道橋を渡らずに国道へ走り出て、走行してきたダンプカーに轢かれてしまった。幼かった自分達が、生まれて始めて目の当たりにした「死」だった。「車に轢かれたら、死ぬのだ...」という事実(現実)また、そうならない為には、どうすれば良いか、という考察とその実行。自分はこの問題に関して、子供と一緒にあってしっかりと考え、伝えていこうと思う。本当に痛ましく、悲しい事故だった。

*狭い道にたくさんの歩行者や車で(駐車も含め)1人で自転車で遊びには行かせられない。もう少し安全に心配なく子供が自転車で出かけられるといいが...

*子どもの自転車のマナー、運転技術が気になり、その都度注意し教えたが不安で一杯。私自身車が後ろから近づくと怖い。スピードが出ていて減速せず、サイドミラーが体にあたりそうで、安心して歩けない。運転者になったときは自分が歩いて安心な速さまで減速するようになった。

*事故は自分と被害者の一生を左右してしまうほどのリスクであるのに、何も考えず無茶する輩が多い。一般人も。それを理解し、ルールを守れる者だけに免許を与えれば、安全かつ車の量も減る。ただし日本経済には大問題となる。

*携帯電話をしながらの片手運転は注意が散漫になり、横

断歩道を渡る子どもに気づかず人身事故が起きている。絶対止めてほしい。

*車がこないときに急いで歩く状態で困る。

*幼ない子は、思いもよらない飛び出しなどするので、歩道を横断する時など緊張する。また、車の排気ガスが花粉症の一因とも言われるようでユウウツ。など

2 歩く力、体力、忍耐力の低下など心身への影響について(36)

*歩くことが少なくなり、忍耐力や歩く力が弱くなった。じき疲れて歩きたがらず、すぐ座りたがる。歩くのを面倒くさがる。歩く楽しさを知らない。(12)

*車を使用することによって子供も大人もの体力が低下している。(5)

*車の移動が当たり前になったせいか、物事への集中力や忍耐力などが欠けると痛切に感じる。(5)

*どこか出かけるとき車で行きたがり、自転車や歩きは嫌がり、運動不足を感じる。(4)

*車は便利だが、発達していく子どもたちの成長には足を引っ張ることの方が多い。車が家と化しているの、公德心、公共マナーが育たない。(3)

*クルマ社会の中で子ども同士の関わりや地域とのつながりが希薄になっていると感じる。(2)

*学校からそのまま車で習い事に連れて行くという家庭が増え、友達同士で道草しながら話したり、自分の足で歩く機会が減り、豊かな心が失われていく。

*クルマで移動する子どもが多くなったため、子ども達の自然や街の様子に対する興味関心が減り、又交通ルールや交通機関の利用方法にもうとい子が増えた。

*歩道の巾をはみ出さないで歩くため、多数の子供の共通の会話が少いと思う。

*車社会は便利さのかわりに、特に子どもたちにこまぎれ時間と、危険に対する心配で、行動範囲の狭さ、体験の少なさ、遊びの貧弱さをもたらしたと思う。

*車は魅力的だが、大人の都合で長時間の移動、夜間の移動、車中での睡眠など、子どもの発達上好ましくない実態も少なくない。大人たちが子どもをよりよく育てるという論議や学習する気運が高まってほしい。

*クルマ社会の中で子どもが一人の人間として扱われるより、荷物的に扱われてしまうと感じる。

*便利さ、忙しさの面からつい車に頼りがちだが、歩くことを心がけないと日本人の老後は足腰も心も弱い人ばかりになるという未恐ろしさを感じる。など

3 減少した遊び場、歩く道、自然への思い(12)

*子どもが安心して外で遊べない状況になっている。昔ののんびり道草を食える環境がなくなっている。もっと子どものための広場を作ってやるべき。(3)

*車の生活の中で、親子で手をつないで歩く体験が不足。親子で発見しあうものが失われていくようだ。

*道路の拡張も便利なようだと感じる反面、緑の減少や子ども達の遊び場のことをもっと具体的に解消して行ってほしいと願う。
*広いはらっぱが町のあちこちにあるといいと思う。子どもにも単純な遊び場がほしい。
*アスファルトの道があぜ道ならば本当に子どもにとってよいのに... (子どもだけでなく地球にも)
*園庭がないため毎日公園に出ている。特に歩行完成する時期はなるべく自由に歩かせたいと思っているが、なかなかそういう場の保障は難しい。
*常に前や周りを気をつけて歩かなければならないのは、子どもの楽しみである道草を減少させてしまう一因だと

思う。ときには空をずーっと見ながら歩くことができれば学校の帰り道ももっと楽しく有意義なものになる。また、親として、子どもだけで外で遊べるようになってほしいと思う。車が入れない道がもっと増えればいいと思う。
*道草での小さくて大きな発見の機会も大切なので、子どもと出かけるときは手をつないで歌ったりあちこち見ながらゆったり歩きたい。
*練馬区光が丘団地などは計画的に作られていて子ども達も安心して走り回っていて、理想的。
*近頃は公園や広場などがなく、マンションが沢山建っているため子ども達の遊び場がない。そのためには駐車場などで遊ぶこともあり、とても危険。

〔B〕クルマ社会全体への意見やそこに暮らす身としての意見

4 クルマ優先社会や利益優先社会への批判や、命を尊重する社会への願い(43)

*車優先でなく、幼い子ども、弱者を守る社会になってほしい(5)
*人の命が重い世の中になってほしい。歩行者優先が当たり前になるように。人間は「歩く」のが基本。歩行者がビクビク外を歩くのはおかしい。(5)
*車優先社会は子どもに優しくなく、貧しい社会だと思う(3)
*歩いたら道端の小さな命も見えるようになるはず。*子どもがかわいそうになる時がある。外は危ない所ばかりでいつも「気をつけなさい」と言われていたら、出たくなくなるのでは?車に脅かされて育っていても、移動手段が殆んどマイカーだと、それが当然の姿、方法であるとすり込まれていく。車に乗ると強者の見方を身につけがちで、交通弱者の立場が見えなくなってしまうのではないか。(2)
*企業の収益優先、利益追求型の社会であり、子供にだけでなく「人」に対する安全は二の次。社会全体が生活優先になればよい。(2)
*子どもにも大人同様に「交通ルール」を守ることを求めたり、「標識も読めず、判断力のない子どもは自転車にのせるな」という意見を目にしたこともある。子どもとはどういうものか、どう育てたらよいのかを考えず、大人(クルマ)の都合だけでなくずし的に街(道・ルール)作りをしてきたことが一番の問題だ。
*どんどん新しい道路が整備されていくが、歩行者(子供)のことはあまり意識されず、車のためだけに造られるように思う。
*車は当たり前で子どもや人間が我慢すべき、という点にまちがいがある。
*車を利用するということは、常に便利さの裏に危険がひそんでいるのだという認識が大人社会になさすぎる。大人は意識が低い(2)
*日本は残念ながら「安全第一」でなく「経済第一」の国のようだ。交通事故について安全第一を推進することは、車を否定することになり、それは、日本経済をリードする自動車産業そのものにブレーキをかけることになる。今の日本政府がそれをするわけがない。日本が「安全第一」の国になってほしい。

*消費、車、ドライバー、仕事が優先された社会制度と法の運営になっている。子ども、歩行者を絶対優先するような警察の態度と道路の改善が必要であり、個々のドライバーの法や規則を守る意識がなければ子どもは常にクルマに生命を脅かされる。クルマや運転に対する社会通念が変わらないと改善は不可能だ。
*社会全体が車からの脱却をはかれないと、よくはないと思う。
*スイスで人優先の生活を見てきたが、日本では人口、車の数も多く、無理があると思った。子どもが信号のない横断歩道で長いこと車の流れが切れるのを待っている姿を見かけるが、もう少し人を優先する社会作りがひとりひとりの自覚でできたらよい。
*排気ガスは花粉症の悪化、ぜん息、アトピー等を引き起こす。少し不便になってもこれ以上必要のない開発を止めるべき。
*環境汚染に対してあまりにもメーカーは無責任すぎる。このままアジアに車が増え続けたら大変なことになるのは目に見えている。
*クルマは便利でいい面はあるが、道路、排出ガス公害、交通事故の増加など、社会がクルマの増加に対応できなくなっている。根本的な対策が必要。鉄道、バスなどの公共交通網を充実してほしい。
*事故が確かに一番恐ろしいが大気汚染も恐怖。
*都市部でのクルマ社会はパンクしている。
*車メーカーが次から次へと車を作り、新車に買い替えさせたりするのも考えてほしい!!(新型のほうが燃費や排気ガスの問題が解決しているとかいうが)、中途半端な排ガス規制も意味ない。
*デカイ車に運転者1人の渋滞を見ると、何かとてもムダだと思う
*日々の暮らしがスピードアップして1日の行動が車の所要時間を基準に決められているように感じる。
*必要最小限の車の数で子どもが安全に暮らせる社会を望む。便利な物とひきかえに失うものを想像できる人間、社会でありたい。そのためのルール作りが必要。
*アイドリング、狭い道も平気で突っ込んでくる車、電話しながらの運転、どうにかしてほしい。きっと運転者も時間に追われる生活をしておられるのだらうと思うと、気の毒(佐川急便が最悪)など

5 大人の意識の持ち方が大事(39)

*なるべく自転車や公共交通を利用し、車は使わないように心がけている(心がけよう)。(7)

*近くでもすぐ車で行く、ではなく、歩いていける、自転車利用できる、を心がけ、すぐに楽なほうを選択しないよう心も鍛えたい。(4)

*どこへ行くにも車があたり前と子どもたちは思っているようだが、バス、電車に乗る楽しみも教えたい。公共交通は公共マナーを知る場でもある。(3)

*子どもと一緒に歩いて登園しているほうがいろんな発見があって楽しいと、ある保護者が話してくれた。豊かな時間が流れていると思った。(2)

*家庭では車での移動が多くなるので、園の保育活動ではなるべく散歩や外遊びなど自分の体を動かす体験や自然と触れる機会を取り入れたい。(2)

*事情が許す限り自転車、徒歩で移動すると目に映る風景が違うことに気付いてほしい。(2)

*子どもは歩くより車のほうが楽だと知っており、とても怖い事なので、歩くことがどんなに楽しいことなのか教えたり、楽しく歩く工夫をしたい。(3)

*身体づくりの為に 歩く 車がへる、 空気がきれいに 自然がもどる、 地球温暖化にストップ 子どもの未来が安全。

*子どもはなるべく歩かせよう。「車の振動は子どもの脳の発達に悪い」という研究結果があればうれしい。

*車が必需品の家庭もあると思うが、ほとんどがそうではないように思われる。なぜ車に乗るのか、もう一度考え直してみたい。

*ペーパードライバーのおかげ(?)でどこに行くにも子どもとはバスか歩き。小学校に入ってから急に歩き始めるのではなく、普段から歩いていると冬道や雨の日の訓練になってよい。

*本来歩いていける範囲の所でも子どもの要求や親の過保護から車で移動する人が多い。「歩けばいい」と子どもに説いても他の子はみんな車だったりするので子ども自身、内心不公平に思っていると思う。たかが「歩く」ということだけでやりにくい世の中だ。

*幼い子どもにとって車はとても危ない。そのためにずっと親が子どもを監視していなければならず、創意工夫が生まれにくい。まだ歩けない子がいる場合は便利な手段だと思うが、必要以上に乗る事は避けたほうがよい。

*車で移動するのは、忙しい生活の中、大変便利だが、「歩く」ことが大切だという意識がしっかりなければ、車社会にのまれてしまうと思う。

地域全体で子どもを守るという意識を持ってほしい。

*公教育に身を置くものは公共交通を使うべきだ。

*多摩市内でも交通の便のよいところもよくないところもあるので教職員全員マイカー禁止というわけにはいかないが、年々減らしていきたい。

*学校の行事があるとき親が車で行くのはおかしい。

*子どもに対して、車の利便性だけでなく、デメリット(環境、安全)等の教育をしていく必要がある。

*現在は交通安全の指導が中心だが、実際に大人になってから、車に乗る、乗らないの判断ができるよう、「車とはどういうものか」という教育が必要。など

6 クルマを使う立場での反省と葛藤(24)

*私自身もいろいろ車のことを考えないといけないと思うが不便な所に住んでおり、むずかしい。(2)

*幼稚園での友達と遊ばせるための送迎にはどうしても必要。(2)

*今の生活・仕事を考えるとクルマはなくてはならない存在になってしまっている。しかし、子どもの成長・発達にはマイナス。子どもも歩くことに疲れてしまっている。大人も体力低下している。(5)

*車社会と子どもの成長について1人1人が真剣に考えないと明るい未来はないと思うが、自分は車なしでは生活できず、そのことを強く言えない。(2)

*車のおかげで便利が手に入るが、夫が加害者に、我が子が被害者にならないことを常に心配しなければならない。自分が歩いているときは車はコワイ、クサイ、クルシイ、いやなものになる。今の便利は本当に便利なのか、何かとひきかえの今だけの便利なら捨てる勇気を持ちたい。子孫に禍を残すのはしのびない。

*仕事の都合で子供をあちこちに預けようとする時間的な理由からどうしても近いのに車で行動してしまい、そのうち車があたり前になり、歩くことを忘れてしまう。いけないと思っている。

*車を持てば近くに行く場合も車に頼りやすい。

*地球温暖化など心配しながら車を使う自分をダメだと思う。

*実際小さな子どもを抱えて(しかも2~3人いたら)買い物や幼稚園の送り迎えは車がなかったら大変そう。車をなくすことは難しいけれど、運転する方のマナーを向上させたり、近場へは散歩がてら歩いていくなど、私たちが努力が必要な気がする。

*目先の利便性にとらわれて1度車を持つと手放せなくなるようだ。なければならないで都会では生活できると思うのだが...

*環境のことを考えるとなるべく車に乗らないように努力したいが、文化活動やボランティアなどしていると行動範囲が広くなり、車がなくてはならない存在になっている。矛盾を感じている。

*できれば公共の乗り物等を使うなどしていきたいが、子供が筋ジストロフィーという病気のため、どうしても移動手段として必要(これからますます...)なのでなんとも複雑な気分。

*車に乗り始めてからなんと車の増えたことかと常々思うと共に、マナーの悪いドライバーの多いことを感じる。赤信号など何のその。身近に交通事故で亡くなった人もいだけ、便利になった今悲しい出来事もたくさんある。自分自身交通事故に遭い、「相手は見てるだろう、出てこないだろう」の「だろう」運転は絶対してはいけないと思った。以来運転はラクなようであつこう「しんどい」ものになった。

*3人子供がいて「車ぐらい乗らないと」とよく言われるが、子どもを育ててきて車がない生活=歩く、電車やバスに乗っておとなしくする等...の中で、よい経験ができたと思う。でも反面、車はとても便利なもの、難しい問題。大人のがまんが足りないのかな...

*健全な子供であれば、雨だ遅刻しそうだ、などの理由で通学などには使わない。など

7 クルマは必要（使わざるを得ないもの）であり共存が大事（20）

- * 仕事、通院などで車は必需品。安全に使いたい。（4）
- * 子どもが小さい場合、車での移動が便利。公共の乗り物では子どもが騒いで他の人に迷惑をかける。
- * 現在の家は車と人との間に距離があり、うまく共生していると思う。こういう工夫で人と車のどちらも共存できる社会を模索すべき。車も電気自動車や性能面でのスピード制限などの工夫をすべき。
- * 子どもが事故にあうという怖さは感じるが、子育て中の母（無免許）にとっては2才、4才を自転車やバスで病院、買い物へ連れて行くのは大変。安全に便利に正しく使えばいいと思う。子供にハサミを持たすとき「危ないから」と取りあげるより「どう使えば安全で便利か」を教えることが「教育」だと思う。
- * 幼い子が3人いると全員自転車に乗ることはできない。歩けるところは歩かせているが、車はやはり必要。社会全体に規制をかけて使用を少なくさせるのも1つの手法だが、老人や障害者、自転車に乗れない子どもが2人以上いる家庭では規制がかかると移動が困難になる。車を便利な道具としてではなく必要な道具として使っている者もいるのをご理解いただきたい。
- * 車社会そのものが悪ではないと思う。車があるからこそ生活活動の場が広がっている高齢者や障害者もいる。結局大切なのは車を利用する者、また、社会がどう考え行動するか。物理的な規制や環境を整えることだけでなく、もっ

〔C〕現実を変えていく対策案

8 ドライバーのマナーや意識の向上が大事（41）

- * ドライバーは子どもの手本となるような、思いやりとゆとりのあるマナーの良い安全運転を。（8）
- * ドライバー・歩行者両方のマナーが大切（5）
- * 子どもは行動が不安定なのが近くにいる時はゆっくり気遣って走ってほしい（3）
- * 歩行者優先であるはずなのに車が優先であるかのような運転をしているドライバーが多い（3）
- * 信号のない交差点では歩行者がいても車はほとんど止まろうとしない。歩行者、自転車が当然止まるだろうという考えがあるようだ（2）
- * 子どもたちがどんなに交通ルールを守っていても、守らない大人がいるために事故が起きている実態が少しでも減ってほしいし、子どもたちもそのことを知り、少しでも気をつけるようになったほうがよいと思う
- * 運転者の意識で事故の「危険も減ると思う（2）
- * 以前は幼い子どもがいると自然に徐行してくれる車が多かったが、このごろはそういう車が少ない。
- * 弱い立場の子どもなどを守る心をドライバーが当たり前のようにもてる社会はどうすれば作れるのか。
- * 校区に交通量の多い狭い旧道があり、道を使う車、自転車、歩行者それぞれのマナーの悪さを感じる。
- * 青で横断歩道を渡っている時に右折・左折の車が通るのだという事を子供はなかなか理解できない。やはり運転者のマナーの徹底が必要。
- * 子どもはクルマ社会において弱者でしかない。私も含め

と問い直すべきところがあると感じる。また、公共の乗り物を利用する場合の回りの反応も昔と違って冷たいものがある子どものマナーも問題だが、子どもがぐずったりしたときの回りの視線や助け合いがないことで、「車で」となっていることもある。車社会そのものの問題ではなく、個人主義に走ってきた社会そのものの問題だと思う。環境を整えることに留まらず、我々の意識変革に向けての取り組みが本当はもっと大切ではないか？初めから答えが導き出されるような偏ったアンケート内容のような気がするのだが...。「実状を調べ」となっているが、悪い実状のみ調べているのでは...。主旨にはとても賛同しており、けっして反論しているつもりはないが...。

- * 車社会が悪いというのではなく、車が好きな子は小さい頃からあの車の車種はなにといえる子もいたりして、結構よい刺激になっているのではないかと思う。
- * 今子どもを育てている世代は、生まれた時から車に自由に乗り回っていたので車は切り離せないと思う。
- * 現代社会の中では車が不可欠となっている。交通整備、運転マナー、交通機関の改善が難しいなら、いかに共生していくか考えるしかない。
- * 登山、イベント、会合など気軽に車で出かけ、様々な体験を通して、友人、仲間ができ、我家ではメリットが大きい。クルマ社会はマイナス面もあれば、プラス面もある。文明社会に生きていればみんなそう。表裏一体で、両手には花はあり得ない。マイナス面があったら、社会に訴え、是正してゆく姿勢こそ大切。など

子どもの目線に立って車の運転したい。

- * 私の身近では、我が子や他人の子供を同乗させているのに平気でお酒を飲んで運転される方がいる。そういう運転手が歩行者の事を考えて運転しているとは思えないので運転マナーをきびしく向上させてほしい。
- * 地区当番制で児童登校時に信号、横断の補助につくが、信号無視、一方通行の無理な進入等、大人のマナーの悪さが目につき、とても子ども達の手本にならない。運送業者の大きな車が止まって歩行者を妨害しているのも目につく。大型車輛はかなり死角になる。
- * 路上駐車もやめてほしい。公園入り口に平気で止めている人もいる
- * 日常、当たり前のようにクルマの運転をしているが、今回アンケートを記入して「危険なクルマ社会」を考えることができた。歩行者にとってはマナーの悪い運転は本当に危険で、子どもが外で遊ぶのはとても心配。子どもたちも周りに注意して外には危険がいっぱいなんだという事を自覚しないといけないと思う
- * クルマ社会の中で、子どもには厳しく交通ルールを教えるなければならないと思う。ドライバーはそれ以上に交通ルールを守り、弱者に対して特に気をつけなければいけないと思う。クルマは凶器だということを絶対に忘れてはならない。これ以上交通事故での犠牲者を出してはいけないと思う。とにかく自覚を！
- * 最近は交通ルールを守らない若い世代の人が多い。狭い道が多いのに、大型トラックの交通量が多い。老人の不注意運転も多い。など

9 道路や交通環境の改善への要望(27)

- *子ども達が安心して遊べる場所、安心して1人で歩ける道を強く望みたい。(3)
- *子どもの命を守る歩行環境、遊び場空間作りは大人の責任、求めるのは住民の権利。(3)
- *青信号で渡っているときの右折、左折は子どもの身長が低いだけによく見ないで渡ってくる車がないか心配。分離式信号対策を講じてほしい(2)
- *歩道と車道をもっと分けた道路計画を。(2)
- *横断歩道や信号などの設置を行政に頼んでも、順番がある等と言われてなかなか実現しない。「危険な所があれば対応する」というが、結局人より車のため。事故でも起きないと考えてもらえないのか?!(2)
- *狭い道路にトラックを通さないなどの規制、物流システム改善などを望む。(2)
- *保育園や幼稚園、小学校などの周辺においては、何らかの車の走行に対する規制を行い、子供たちの安全第一のシステムを作っていくべき。(2)
- *高速道路作りより安全な歩道確保を。
- *多少不便でも一方通行路を多く設けるとよい。
- *校区に大型車の通る国道などがあり、中学生は自転車で通学するが大変危険。今までも事故で何人も亡くなっている。安全に通れる道に整備を。(2)
- *青信号を普通に歩いていても車にひかれそうになったことがある。こんな環境ではいつ子どもが事故に遭うかわからない。せめて安全な歩道の確保を。
- *最近歩道にレンガやブロックを敷きつめた所が増えていますが、ベビーカーやカート、電動車椅子ではデコボコしていてとても通りにくそう。改善を。

10 取り締まりや運転教育、罰則強化の要望(14)

- *道の狭い道路でもスピードを出している車、信号無視、運転中の携帯電話、駐車違反、暴走族等の車は、もっと、警察が取り締まってほしい。(3)
- *現代の車の多さとマナーの悪さに親だけでは子どもを守りきれない。もっと国レベルで動いてもらいたい。
- *自分は教習所での教え通り、とまかく人優先、という思いで横断歩道前で止まるのに、対向車が止まってくれない!ということがよくあり、腹立たしい。免許取得後のマナーがとても悪いので、再教育制度を。
- *だれでもが免許を持てる時代ではなく、合格の基準を上げて免許を渡してほしい。
- *スピードを出すことの危険をもっと学んでほしい。
- *最近特に自転車に乗る学生などの危険な運転が目立つ。歩行者優先を教える必要がある。このまま免許を取り車の運転をしようと思うと恐ろしい。
- *飲酒運転者にはもっと厳しい罰を与えるべき。
- *事故を起こした人は免許取り消しで二度とクルマを運転できない処分を科すべき。
- *スポーツカータイプの車に乗っている若い人達は一般的にスピードを怖いもの知らずで出す傾向がある。もう少し命の重さを充分に分かった頃から免許取得できる様にしてもよいのでは(バイクも同じ)。
- *私も3人の子供をもつ親だが、特に通学路では気を配っ

て車を運転している。子供だけでなく人々に危険を感じさせる運転者にはきつい取り締まりを行うべき。
*運転免許を持つ者の心得として、歩行者への配慮を促すような免許取得の際の教育を願いたい。

11 公共交通の充実や使いやすいシステムへの改善要望(10)

- *現在住んでいる所は一目でわかる程車中心の社会で、歩道の整備が不足していたり弱者に厳しい街。電車は走っておらず、バスは便がよくないと運賃もかかるので使いづらく、ほとんどの人がマイカーをもち、使う機会が日常的にある。最近、「福祉循環バス」という無料のシャトルバスができたが路線や本数が少ないのでなかなか利用できない。もっと増便したり、色々な所を走るようになれば通勤・通学や保育所の送り迎えに使えるし、ちょっとした買物や外出もマイカーでなくバスを使うようになると思う。
- *公共交通が成り立たなくなっていくのは完全に政策によって車社会を作り出してきたからだと思う。こうなったら、無理にでも変えていかなくてはどんどん悪く進んでいくと思う。
- *公共交通網の充実が必要。タクシーも気軽に使えれば車の利用が少なくなるのでは。
- *やはり排ガスによる害は大変大きいと思う。私も現住所に越して来るまでは車を使用しなかったが、小さい子を抱えて交通の便の悪い所に来ると使わざるを得ない。気軽に(時間的に、経済的に)使える公共の乗り物があれば...と思う。
- *市内をコミュニティバスが走っているが本数が少なく不便。もっと住みよい交通環境を作ってほしい。
- *ヨーロッパのように市電を増やし、自転車が乗りやすい国に。アスファルトの道路を減らし、緑の多いでこぼこ道にもどし、自然と共生していける街にと願う。
- *バス・地下鉄・路面電車は2人目の幼児から料金が取られ、高い上に乗降・乗継も不便。階段で苦労しても手伝ってくれる人がいない。など

12 その他の対策案(11)

- *なるべく歩く環境教育として排ガス規制など必要
- *車の数を減らす。所有制限を。(2)
- *時速30kmは、幼児を連れて歩けば分るが速すぎてとても危険。ハンプ等設けてもドライバーには逆に障害物があるってスリルだろう。もっと遅い速度制限に。
- *ぜん息の子どもがとても増えているのはやはり車の排ガスの影響が多いと思う。電気自動車等のクリーンな車をもっと普及してほしい。
- *低公害車の研究・開発・実用化が、地球環境・人間の暮らす環境をよくするために、必要不可欠。安全性(排ガス・通行・事故防止)についての研究を進め、企業と行政と市民が協力して、改善してゆく。
- *昔のように「みどりのおばさん」の必要を感じる。集団登校にしてほしい。
- *交通被害者やその家族に、国や地方自治体の保障や支援を充実させてほしい。
- *理想としては、車に各種の規制をかけない形で交通環境を改善できればよい。など

〔D〕子どもへの防衛対策

1 3 子どもや歩行者のマナー教育も必要(27)

- *子どもにも小さい頃から交通ルールをきちんと教えていかなければならないと思う。もっと講習を。(11)
- *子どものマナーも悪い。車を恐がらない、車に石や雪だまを投げる、車の目をわざと通る、道に広がって歩く、など。(4)
- *自転車のマナーが悪い。道路の区切りで減速や停止しないでいきおいよく走るなど。
- *子供は運転する立場にはなれないので、大人が充分にルールを教えてあげないと危険なことがわからないと思う。安全な環境作りや、各自で思いやりを持ってルールを守り行動することが大切である。
- *いずれは自分も大人になり、車を利用する立場になったときの注意点も教えていってはどうだろうか。
- *今の子どもは歩くことが少ないので、通園のときは交通ルールを教えながら親と歩いたほうがよい。
- *一学期は門から道路に飛び出す子が多く、かならず門に先生が立って注意を促す。親で注意しない方も最近みうけられる。
- *事故にあった時に歩行者側はたいいてい保護されている事に安心しているのか、信号のない所は確認もしないで渡ってくるし、自転車もヘッドホンをしながら走ってくる。車側の過失を問うよりも歩行者側にも対等にした方が歩行者の意識も安全に向くのではないか。
- *改造車やバイクに対して憧れを抱いている子どもも少なくはなく、若者の事故に結びついている。性教育同様指導が必要と考える。
- *スクールバスがないと通えない子がほとんどなので便利さとルールを守る大切さの両方を伝えていきたい。
- *学校でも交通安全の学習をしているが、やはり家庭でしっかり教えていくことは大切。
- *帰りの会などで交通安全についてはほとんど毎日呼びかけている。安全対策と合わせ、自らの命は自ら守る事を教えていくことも大切。など

1 4 クルマに対する子どもの危険意識が希薄・クルマの危険性を教えることも必要(17)

- *車が身近にありすぎるのか、危険性を伴う乗り物であるという認識が抜けているように感じる。(6)
- *クルマは便利だけどやはりキケンなもの。子どもたちにしっかり教えたい。(2)
- *ニュータウンは車道と歩道の分化が進んでいるので子どもが車に対して注意することが少なく、かえって危険を感じる。(2)
- *子どもは歩く側としてのマナーを何度言いきかせても、突然、思いもかけない(突飛な)行動をするもので、常に危険と隣り合わせな状態にあると思う。
- *大人のしていることを見ていてまねをする(斜め横断、信号無視等)。
- *つくば学園地区に住んでいて、他市町村や都会に行くと、我が家の子どもたちは幹線道路以外はすべて歩道と感じがするようだ。
- *信号を守るなどの交通ルールを守らせる事以外に、自分は正しくても車が間違えて自分を襲ってくることもあるという危険性も教えなければならぬと思う。
- *子どもの安全を守るには、親が子どもに対して十分教えなくてはいけないと感じる。私の場合、すぐ近くが17号で交通量が多いため、実体験を通じて車のこわさを子どもに教えている。
- *子供は注意が他へ向いていると車のことも気にしていないので大人や親が注意するしかないと思う。
- *子どもが小さいと親もつい車のほうが楽なので週末はよく利用するが、確かに車があって当たり前だとうちの子達も思っていて、車が危険だという意識が少ない。親自身も考えて子ども達にその事を知らせる必要があると、このアンケートで感じさせられた。
- *車の死角、運転者から見える範囲は限られていることを教習所などの協力を得て、正確な知識を特に子どもに知ってほしい、伝えたい。など

〔E〕その他

1 5 上記分類以外の意見(11)

- *車を運転する事ができず、他人に乗せてもらうことに申し訳なさからストレスを感じる。
- *日頃からマナー違反のトラックに恐怖を感じる事が多いが、近頃は「子どもを連れて歩くとき一番怖いのは自転車なのではないか」と思う。スピードを出しすぎた自転車に気が気ではない。
- *「クルマ社会」というと車が増えたことが悪いように言

- われるが、使い方が悪ければ使う車を減らしても問題は解決しないと思う。
- *子どもたちは“車”が大好き。その車で悲しい思いをする人が減るよう、抜本的な改善が求められている。
- *児童が良くかぶる黄色い帽子は交通安全上どの程度効果があるのかを知りたい。
- *便利さが優先の今の社会、まさかのときに起こるパニックの為に常々の訓練も必要なのは、不便さの中に生まれる知恵も大切なのではないだろうか。など

アンケート回答報告は以上で終わりです。
最後までご覧いただき、ありがとうございました。